

南大王松

町田市立南第一小学校
学校だより

2018年5月31日 第3号

145周年を迎えて

校長 清水 淳

本校は、日本に学制が敷かれた翌年、明治6年6月10日(火)に開校しました。当時の子供は、一家の貴重な労働力として期待されており、授業料を払ってまで学校へ通わせることに抵抗を感じる家庭が少なくなかったようです。学校世話役という方が各家庭を回り、就学を促すとともに、就学させた家庭には退学させぬよう説得していたそうです。確かに江戸時代のように親の職業を受け継ぐことが当たり前だった時代には、親と一緒に働きながら見よう見まねで知識・技能を磨いていくことが一人前になる近道だったでしょう。しかし、明治時代は、新しい産業を創り発展させるため、教育によって日本を支える社会人を育成することが必要となったのです。逆から考えると、教育により個人が自由に職業を選べる時代になったともいえます。

本校は開曠学舎として東雲寺に開設されました。寺に建てられたのは、寺子屋の名残があったためかもしれません。しかし翌年、東雲寺の焼失に伴い、細野正重氏の敷地内に校舎を建てます。自宅に学校を建てるということから、当時の教育に対する並々ならぬ情熱を感じます。明治20年、細野喜代四郎氏らが資金資材を調達し、村人たちの労働奉仕によって現在の正門付近に新校舎が建てられました。教育こそが未来の日本を背負う人間を育てるといふ、この地域の方々の将来を見通す確かな力に脱帽です。卒業生として、東京大学教授でケネディ大統領と親交があった細野軍治氏、その橋渡しをした衆議院副議長、国務大臣と歴任した岩本信行氏などを輩出したことから、当時の方々の先見の明の確かさが証明されています。

時代の流れとともに校舎や校名、校章は変わりましたが、130年以上も同じ土地に在り続ける本校。代々本校に通い、5代目の子供が通っている御家庭もあると聞いております。今後も、地域と共に在り続け、自然と人が集まる心の拠り所でありたいと願います。中央の文字が「開」「南」「南一」と変わろうと桜花の徽章は変わらないがごとく、懐かしさの中にも先人の開拓精神を受け継ぎ進展し続ける学校でありたいと思います。

5月29日に航空記念写真を撮影しました。子供と教職員全員で140周年記念の時にイメージキャラクターになった「はじめくん」と「みなみちゃん」を人文字で描きました(右図)。航空写真は、子供たち全員にクリアファイルにして配布します。どのように仕上がっているか、楽しみにお待ちください。また航空写真と併せて、集合写真も撮りました。145周年の年度に、本校に在籍していた子供たちの写真となります。本校では、2つの写真を150周年など今後の参考資料として保存する予定です。なお、集合写真は一般販売となります。詳細は後日お知らせいたします。



本校の歴史を調べるうち、困った発見が…。昭和51年発行の町田市史(下巻)に本校の創立記念日は5月28日という記載が。さらに、歴代校長の写真額にある初代校長名は「小管右太」氏なのですが、どの冊子にも初代校長は「小林佑太」氏との記載。発見した私が書き直すのはよいとして、「小管右太」氏はどなたなのか?最後に、開曠学舎の「曠」。あらゆる資料に、「曠」と「朦」の2種類が混在しています。明治24年の卒業証書には「曠」と書いてありました。誰かが「めへん」を「つきへん」と間違えたようです。ただ、職員室前と体育館にある校歌の歌詞には「つきへん」の「朦」が。彫った卒業生を考えると、勝手に直すわけには…。悩みます。